

前へ前へ 前のめり



プロレスラー

くいしんぼう仮面さん

Profileプロフィール

マスクマンのプロレスラー。身長182cm(頭頂部の黄色いポンポン含む)、体重は変動が激しいため不定。大阪名物くだおれ人形のパロディキャラで、全く喋れない(喋らない)キャラクターだが、動きや仕草で観客を笑わせる。

—— プロレスラーになられたきっかけは。

父親がプロレスファンだった影響で、プロレスが好きになりました。私は身長が特別高いわけではないのですが、中学生の頃プロレスの興行を実際に見て、意外に私と身長が変わらないプロレスラーがいたので自分もなれるかと思い、プロレスラーになると決めました。高校からはレスリング部に入って、高校

を卒業して上京し、東京のインディー団体^{※1}に所属しました。

—— デビューまでは苦労があったんですか。

それがインディー団体だったこともあり、上京して数日後、プロレスのトレーニングも皆無のまま、プロレス会場のリングでレスリングのスパリングを見せたところ、突然、団体の代表から「じゃあ今日、試合に出しちゃえよ」という言葉があり、突然のデビューになりました。もちろん、当時は素顔、本名のプロレスラーです。

—— 突然のデビュー…。インディー団体で生活はできたんですか。

プロレスでは全然生活ができなかったの、アルバイトをたくさん

していました。それでも、足りない分は親から仕送りをしてもらっていました。高校卒業後、数年間はインディー団体で、そういった生活を続けていましたが、いつまでも親に負担をかけられないので、プロレスラーは辞めて、実家の徳島に帰りました。

—— いつ“くいしんぼう仮面”が生まれたんですか。

徳島に戻って、すぐに大阪で“大阪プロレス”という新団体が設立されることになったんです。私がお世話になっていたインディー団体の先輩達も、大阪プロレスに所属することが決まっていた、私も誘われました。当時の大阪プロレスの代表は、すでに“くいしんぼ

※1 新日本、全日本プロレス等のテレビ放映のあったメジャー団体以外の団体。

※2 当時のスターレスラーであったスベル・デルフィン選手。



写真提供／くいしんぼう仮面

う仮面”というキャラクターを作っていて、飛び技ができるレスラーということで、私が中身になることになりました。

—— **くいしんぼう仮面さんのリング上で喋らない、だけど、とてもコミカルなキャラクターはどうやって生まれたんですか。**

喋らない、リングインのときにはコーナーで寝る、といった設定は代表が考えていました。それに加えて、自分のアイディアや、レスラー同士の間合い、ファンの方とのやり取りの中で生まれていったものもあります。

—— **マスクマンの方は、絶対に人前でマスクを脱がないんですね。**

私は結構すぐに脱いでしまいます。マスクは視界も狭くて、息苦しいんですよ。ちなみに、グレート・サスケ^{※3}さんは徹底しています。一緒に車に乗ったことがあるのですが、レスラーしかいない車中でも、マスクを脱ぎませんでした。

※3 みちのくプロレスの創設者で、空中殺法の達人。元岩手県議会議員。

—— **プロレスがやらせだ、という人に対しては、どう回答します。**

「こんな服装なんだから、真剣勝負に決まっているでしょう！」と答えています。

—— **プロレスラーにとって大事なことはなんですか。**

運と続けるということだと思います。私自身、くいしんぼう仮面になる前は、プロレスで食べていくことなんてできなかったんです。それが、くいしんぼう仮面になってからは180度変わりました。これは運の面が大きいです。そして、運だけでなく、続けることも大事です。レスラーをやっていると、色々なことがあるので、辞めたくくなるような時期も出てきます。怪我をして長期欠場、営業活動が辛い時期等、それでも、続けていくことで花開くこともありますから。

—— **プロレスラーを続けていて、一番嬉しい瞬間は。**

やはりファンからの声援です。普通に生活していて、声援をうけることなんてないじゃないですか。そ

れが、プロレスの時はただ入場するだけで、声援が飛んでくるんです。自分が主人公になったような気持ちになります。これがやめられなくて、レスラーはプロレスを続けるんだと思います。

—— **大変なこともありますよね。**

リング上からリング外に飛び技をしたところ、当たり所が悪くて、記憶が飛んだこともあります。自分は何も覚えていないのですが、後で映像を確認したところ、カウント3が入らない様に、飛び起きたりしていたので、レスラーの本能があるんだなと思いました。あとは家族もいますから、プロレスラ



ーとして生活をしていくというのも大変ですよ。

—— **くいしんぼう仮面さんぐらいの
人気者であれば、結構儲かるの
では。**

大阪プロレスに所属してから10年ぐらいは、給料制で給料も貰えてましたし、自主興行をやることで、副収入もそれなりにありました。「プロレスラーたるもの。いい車に乗らなければ。」という思いもあったので、ちょっといい車に乗ったりもしました。今は給料はないですし、自分で仕事をつくっていく必要があります。

—— **仕事を獲得していかなければ
ならないのは、弁護士と同じです
ね。バーの経営をされていたこと
もあったんですか。**

ちょうど給料が出なくなった頃で、何をするのか焦ったりもして、

梅田にバーを出店しました。でも、すぐに閉めてしまいました。というのも、プロレスの試合をして、その後にお酒を作って、という生活をしていたのですが、自分はプロレスがしたくてプロレスラーになったので、お酒を作っても、自分のしたいことではないな、という思いがあったんです。それで、すぐに閉めることになりました。

—— **現在はこういった活動をして
いますか。**

プロレスのオファーがあれば呼ばれて試合をしますし、自主興行もしています。他にも、クラウドファンディングで資金を募って自分で本を出したり（下図参照）、会に行くプロレスから、会いに来るプロレスということで、マットプロレス（リングではなくマットでプロレスをすることで、コスト

を抑えることができるプロレス）で出張プロレスもしています。

—— **マットプロレスというのもある
んですね。**

やはり「プロレスはリングでするもんだ。マットプロレスなんてプロレスじゃない。」といった意見を頂くこともあるんです。でも、マットプロレスは、宴会場でも、バーでも、自宅の庭でもどこでもできるんです。実際にマットプロレスをすると、皆さんとても喜んでくれるんです。そこで、初めてプロレスに触れた方に、プロレスっておもしろいね、と思ってもらえれば、リングのプロレスを見に行くことがあるかもしれない。そういった影響力って大事だと思うんです。

—— **好きなことで生きていくって、
大変なことですよ。**

待っていても仕事のオファーは来ません。だから、自分で新しいことを考えて、好きなことをするようにしています。趣味が元々ないので、新しいことを考えるのが趣味みたいなものです。昔はお金を追いかけていた時期もありましたが、高級車に乗っていても、嬉しいのは自分だけで、周りの人にとっては何も嬉しくない。だったら、色々な人に喜んでもらえる生活の方がいいんじゃないかと思うようになりました。今は無駄な生活費を削った生活をしていて、目の前のお金ではなくて、応援してくれる人を増やすことが一番大切な気がしています。

（Interviewer: 伊田真広
Photo: 高廣信之）



生 Information
き様インタビュー第1弾、第2弾。プロレスラーの生き様を世間に伝えたいという思いから、くいしんぼう仮面がクラウドファンディングを利用して出版したプロレスラーの生きざまのインタビュー本。自費出版のため、クラウドファンディングの支援者以外は、プロレス会場、イベント、Amazonにて購入可能。